日本ちの歌

四

詞を名とを四

EV.72

PL788
.4
.G4
1654
vol.7
copy1
Asian
Japan
cage

LIBRARY OF CONGRESS

2004551302

源氏十七夜の十月より四季の十月までも

朱雀院の明幸ハ神無月の十日あまりなりよの
つねなりぞおもしろかるべきことびのことなりけれバ
此かるゞ抱えのもとめしかりしがり給ふ
も荻つゞのこゝまはざらんをなりぞおぼさるれど
試示を此前にてきさせ給ふ源氏の中将ハ青海波
とぞまひ給けるなりてまは大とのゝ頭中将かる
ちよういへまことなるを立なりびてとし常のゝ
ちらの深山木なりへがこの日かげさやかなさしこ
なかなかくの声まさりものゝおもしろき程におるゞ
舞のあしづかおもくちよまこしぬさ後なり詠など
し給へるハ是や佛の此迦陵頻伽のこゑなりんと

きゝゐ。おもしろく袁(あれ)なるまゝ。みなど波(なぎ)おとし給。か
んどちめみてこちもこれなきなめ。祇(しい)にて袖(そで)う
ちなをしのへるまゝ。まちとりこるがくのこゝぎを
そしこきまゝ。源(源)の色(いろ)あひまきりて。つねよりも
ひかるとこゝ給。春宮(とうぐう)の女御(ねうご)。弘徽殿(弘徽殿の)がくめでしこきまつ年
てもこゝなすぐおぼして。神(かこ)などそらまめでつ
べきかこちかゝ。うこそゆく志とのまふを。まりこき
女房(ねうぐう)なども心うしとみくとゞめかり。藤(ふぢ)つぼハ。おほ
けるきこころなりましかバ。ましてめでしこゝ
ましとおぼすま。夢(ゆめ)のこちなんしまひける。宮(なつか)を
やがて御とれぬ。夜かり。かふ(清門詞)の志がくも青海波(せいがいは)り

ことこれつきぬ。いりぐこゑぬひはるとこそしゑ
だ。あいなう(蒸か)はいらへこそしまくて。ことは給つと
ぐりこそし給。(門詞)りるてもぞしうもあらずこそこ
えつれ。まひのさ夜てづひなん。家(以)のこそしことな
ら。これよりは名(な)をえしらまひのおのこどもくげる
いとりしこそれど。こゝしたうしなりまめつゝすぢな
えなんこそぬ。心ミの日りくはくしつれば。もみぢ
のかげやさうぐしくとせへどこせしそまつらん
の心まてよういきさせつゝなどこそし給つとめて
中(添)将の君。いり(文詞)はしんじけんよりましぬこゝり
ごろちなりしこそ

抱(源)ふは立(ち)まゝべくもあらぬ男の袖(そ)うちかり
し心をりきや。何かかしことあるは(地)返(へり)めも何やなり
しはさ夜かたちはこゝろひ志のぐれずやなりけん
なつか(なつか)ら人の袖ふることはとをかれど立(ち)ぬまつ
かて哀(あはれ)といふ。大かたまもとなるをかさり(源人)るう
めづしうかやうのうさへたどくしからず。人
のこゝろどまでおもほしやれるはさされこと葉(ズ)の
かねてもとほくゑまれて指(ぢ)理(きやう)(地)のやうりひろ
げてこゝろゐへり。行(ごきやう)幸(ぐう)はこゝろたまどよま
ある人なくつうまつりゐへり。表(とうぐう)宮もおりします。
れいのがくのふねどもこぎめぐりて。もろこし(唐ハ左)こゝ海(する葉ハ右)

とけくしたる。舞(まい)どもぐさおほかりぐくのしたて。
これ者(をと)世をひぐかす。日(内)とひの源氏のれゆふかげ。ゆ
ゆしうおぼされて。れ(ミ)ず經(きやう)など取(とる)くまをさせ給
をことゝりとあるれがりきてゆるに。妻(とう)宮(ぐう)の女(ねうご)れ
れ。あるがちなりとまくこゝきしまふ。かいしろ(垣代)
るど。殿上(てんじやう)人地下(ぢげ)も心とたりと。世人にしられる。
いうそくのかぎりとくのへさせまへり。宰相(さいしやう)ふたり。
左(さ)清(しん)つ(のかこ)贈。右(しん)清(のかこ)つ贈。ひぐり左(こぎ)のがくのことをこれ
ふ。まひの師どもなどよくなべてなるぬをうり
けるをのくこもりゐてなんなるひけるごとき
紅葉(もみぢ)のかげに四十人のかいしろいひしらず吹(ふき)そ

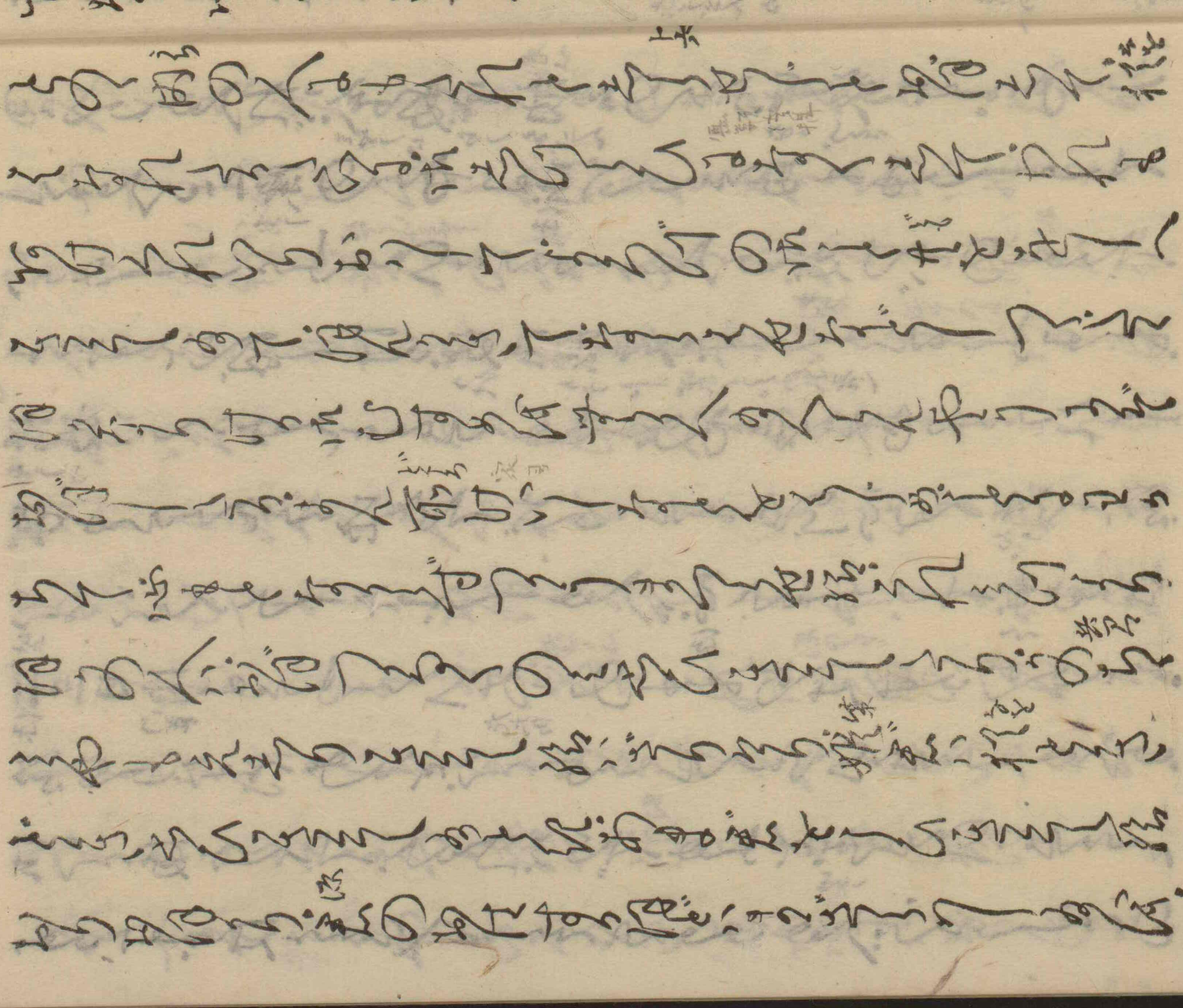
ゝる抱の竜どもはあひゝる松風まことのうやま
をろしとゝろして吹まよひ多くはちりかふ木
のゝのなすゝり青海波のくやき出ゝるさ南い
とおそろしゝきまでこゝゆかざしの紅葉いて
うちりすぎてかかのはひはけをされゝる
こゝちすれどおまへなるこゝくをおりて左大将
さしうへまふ

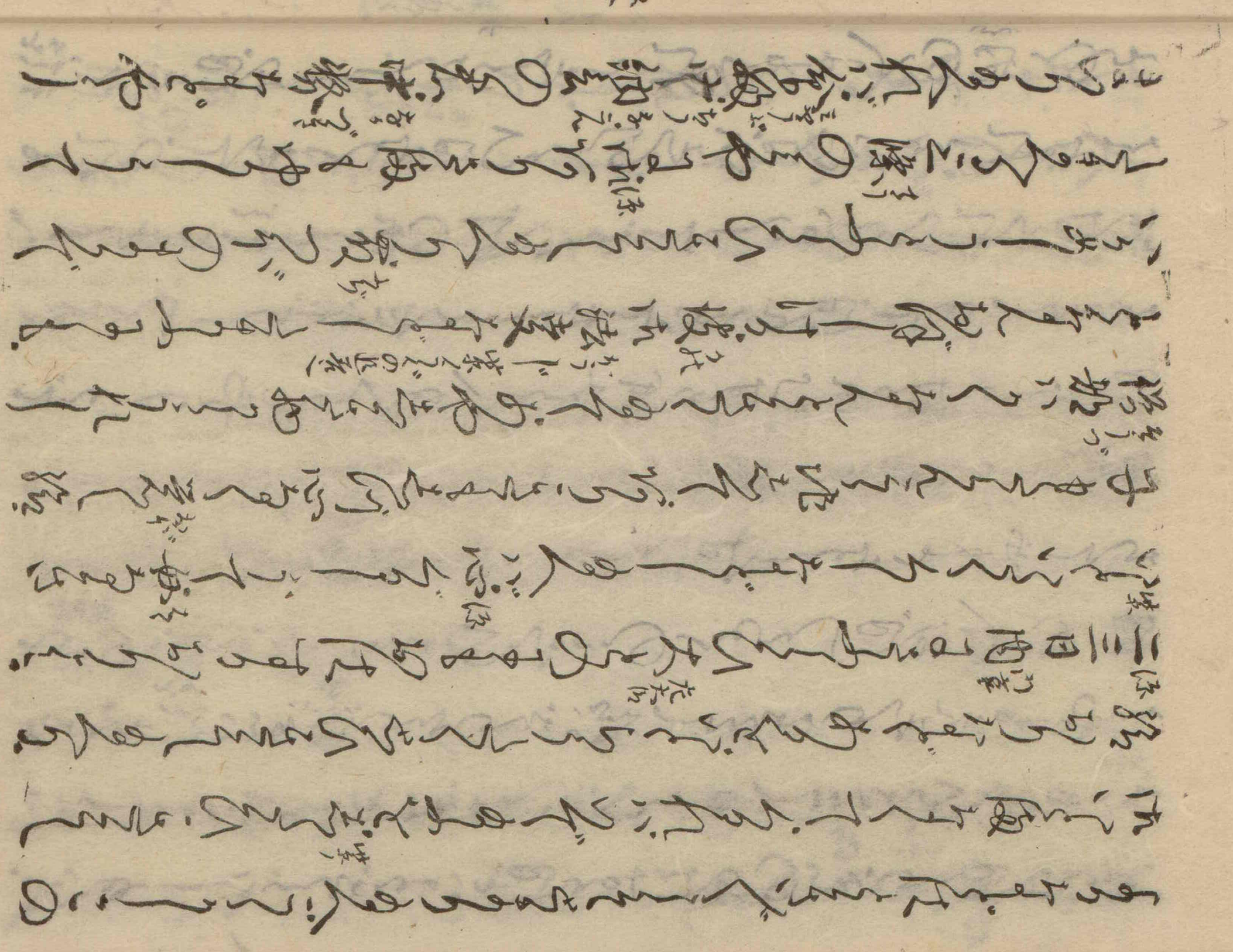
日(地)くれかゝる頃どもは氣色(けしき)ばかりうち志ぐれて。
雲(そら)のかしきさへこしつまじかなるまさるいこじ
きすぐるまさくの多くうけろひえなるぬをゝ
ざして。かふいまるなるさてをつくしたる。入あや
の程(かど)そぐろざむく。此世のことも見(おが)ず抱こし
なまじきしもべなどのこのもと岩(いん)がくれ山の木
の葉(大)まうげもれたるさへ。すゝしものゝ心志るいなるぶ
おとしかり。菅香殿(せうこさやうでん)のれたちの田(添ノ牙之)のこゝまぶわらい
まて。秋風(しうふうらく)未まひゆへるなんさしつぎれ見抱なり
けるゝれらまおもしろされつきまそれバこしくく
りめもうけらずかへりうるもことゞまりしかや

ありけん。それ東源氏の中将正三位志なるに。凱中将正
下のくいしなるに。うんざらめたちはそれさうぞきさ
うきりのしるろうびしき給もうの志まひかれたまへり
なれば人のめをもおどろかし心をもしるこどもを給
昔の世ゆしげなり。家はそれしろまりぞ給ぬれば
いのひまもやとうかどひありき給をことまて。
お目いとのまはさはがれなふいとどかれ見る草さぶ
れどり給てしを二条院まは人むかへたまへりぬ
人の罪しかれば。いと心づきなしとおぼいたり。うち
うちのおりさ海は志り給てぞさもおぼさんことと
もりなれど。心うけしう例の人のやうまうしこの

給はぐ我(源ノ)もうしたくうちうちりてたすぐさめさえし
てん抱を思(葵ノ)えずるのことりないまふ此心づきなきま。
さ(源ノ)もあるまじきすきひごともむくるぞうし。人の此
ゆりさ海のるかまぞれことのあるぬとおぼゆる
ことずもたすし。人よりさきまこそめてしうば。
あくれまやむごとなきうるまぜひ罕(きこ)ゆり心をもたり
おくぬほどこそあるゆんづぬまたおぼしなをされ
なんとおぼしくうがぐしうしぬ此(こ)うろの程も。
とのづらとこのまるうるいことなりそり。おさ(そより葉ノ)れき
人ハこけいまふまるまいとよきさ心ざ海うちうり
てなる心まるくむつれまどりしきて給。志(源ん)ばし

とのゝ内の人まもられとしてせじとおぼしてゐ
そなれたるゝ御しのひまなくしてゐれも
なけれいりおりしてよろづの御ことをしへ
きこしまて御んかきてなすこせなどしつゝ
御なりけり御むすめ御母うへのへんやりまぞ
おぼしたるよん所けいしなどをくじめどもまゐ
ちて心もとなくぞつゝまつらせ給ふれこゝより
御の人はおぼつるくのこゝしたりのちく
こやもえしりこそして給はざりやり娘ぞは御とさ
どきこひこそしあと御おまぞをしひこそして給
おりおほうり。御のおはすりほどはまうざらりしあ。



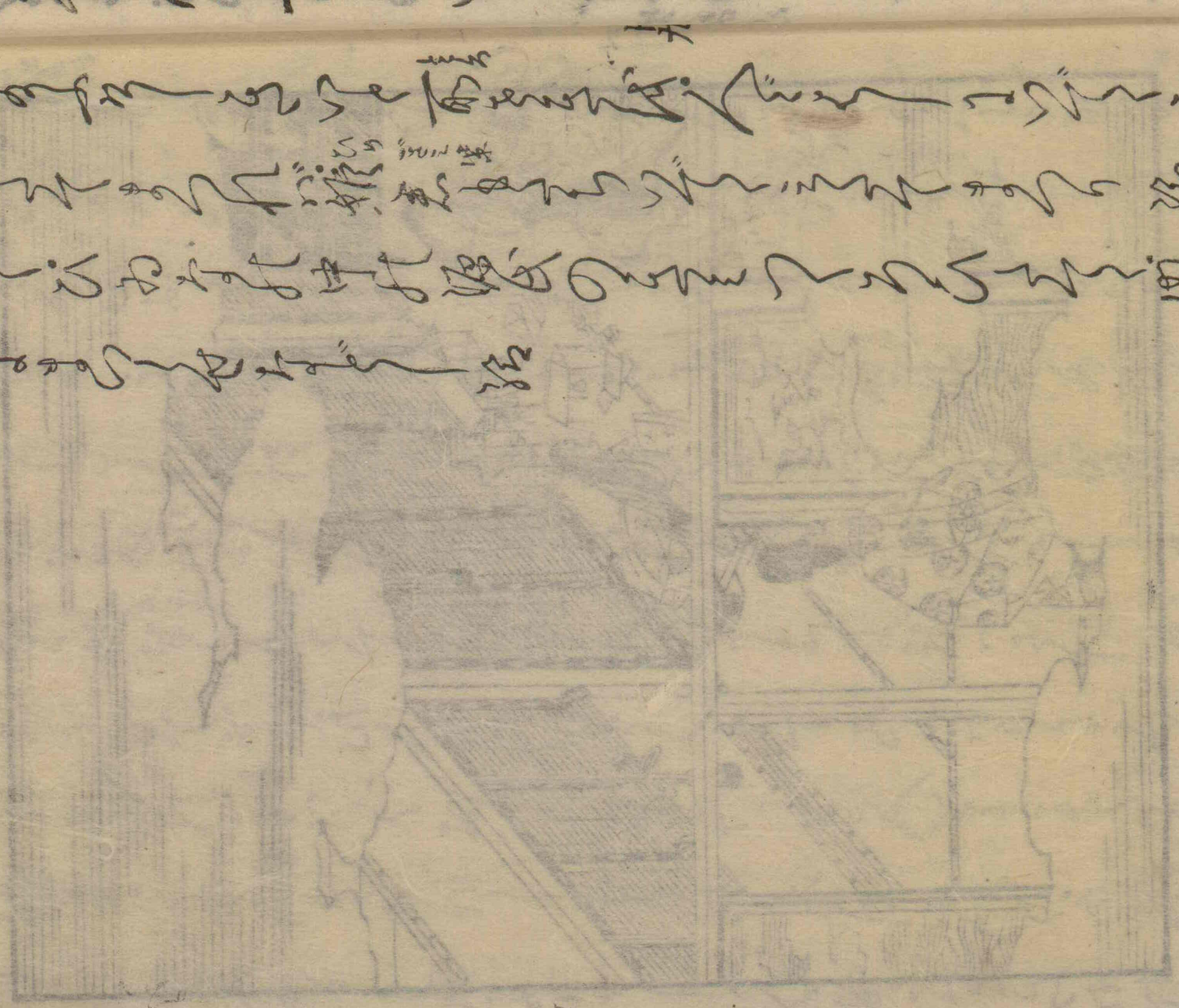


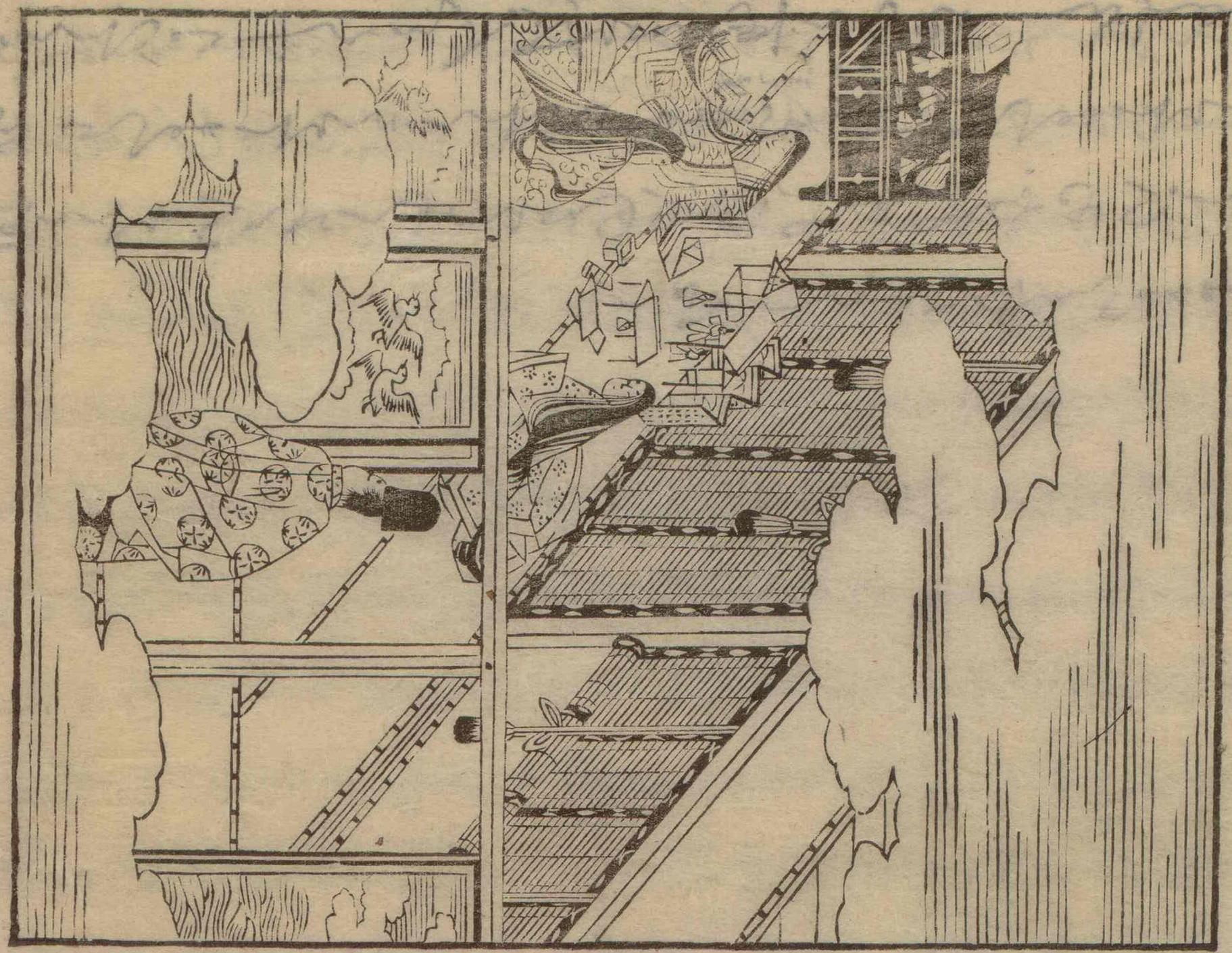
の人ぐ・さいめんしたりげざやうまもてなし給ふれ、
とやすらぎおもへど・しげめて犬ゝるの御抱ゞたり
ことゝ給行る・無アの実まつりまへり・これ君に
ちすとゝさてまてさいめんしまへりいとよし河ゝき夜
していろめしうなまびまへるを安まてこんも
おかしうめべく・人しれぞこゝてまつり給はも・
うるぐむつましうおぼしまてこゝまやうに御もれ
がたりなどこゝてまふ・実もこれ御さ夜のつねより
ことまなけかしうこまちとけまへるをいとめで
さしとこゝてまつり給てむこゝまなどハおぼしよ
らぞ安まてこゝやといろめきこゝろ御心にハおもほせ・

かれぬれば（音ア）ふすれ（ふら）由は入のをうしやましくむかし
いふ（清）へのれもてなしまいとけぢかく人づてるぞ
他ともさてしのひしをしよなううとゝのへるも
つくあはゆるぞわりなきや（添詞）志ばくもさふし姫
べかれどことぞとも侍るぬほどハとのげりしをこ
しり侍ぬさるべきことなどハ（おほせ）侶ごとも侍らんこそ
うれしくなどすくくしうていぞのめ令姫もこ
ぐらきこそんかるるく（若つか）文の（こ）内（けしき）字文もありし
ようそいとぐうきつしまぬほしをきそ心とけぬ
れをしきもさばかしういとおしかれぞなまの志
なしもなくて通り（すぎやく地）ぐるの（ちきう）笑やとおほしこぐ

ありしことゞもつきせず納言ハ相ぐしきこえ
かしこまりつれ是もて行まうしへのこれたれ事を
相ぐしてなをこなたにもいのりさせ給ひし、
仏のれうにまゐらせしをおばはおばのかたにやむ
ごとなくておもしろうしこおぼしつゞけひ
給ふそでおさへ給ふおどろかせ給ふまでひんぼどなまほしくつ
きこしめやうを思けつされどもくちをしさおもひ
あへるにおばぎのかどいでとうさたまへばげなりうし
みぐるしうすい月こそてでまうすハめでたきあり
あなとおもしろうおもしろやうすくてあはひぞ給ハりばやすげゆかし
源氏ハあしぞ紅紫山むらさきのゆかりをわすれこ

うちにおすどをきこのへるさ海にいこしいまめかしこうお
しげなりおとこぞ（添十八戈）ハ朝拝（てうたい）にまいり給とてざしのぞき
のへりかふ（添河）よりハおとなしく女（なり）のへりやとてうちゑ
のへるいとめでたう愛形（あいぎやう）つきのへりいつ（紫）しかひねなを
しすへてそくきねのへりこ尺（じやく）のこげしひとよろひにも
れぞれしつくひすへて又らいさ紀や花（どい）つくりあ河めて
なのへるを所（ところ）をきまでおそひむろげのへりぞ（紫河）ツイナや
らふとてぬきぞこれをこぼら給ふれバつくろひ
とべるぞとていと大変（ざいじ）とおぼいたりげ（添河）ハいと
こゝろなきさ人のしわざまも給ふれいまつくろし
せとべらんかふハこといふしてぞまゝハ給（しまひ）てとて出





の御出詞
ことしぐまするしおとなびさせまへどをり
あまりぬるへはひねなあそびはいとたべるものを
かくれおとなどまうけてまつりまてはあな
べかしうしめやうまてこそそしなしせ給ちめれぐ
しまいる程をぐまもれうくきさせ給など御納言
そこも。れあそびまのこ心いれまへれぐ。ひげかしと
しさせ。なとんとていへぐ。紫ころのうちま。我はさは男
まうけてぐり。此人ぐのおとことてあるはこまくて
こそ何れ。乳はうくおしげまつりきへともをしり
けるなと。今ぞおぼしたりけるさは。地いへど。此年
のうどそふしるしなめりしうくおさるきれけ

たひのことまかれてしるされば（源ノ内ノ人ミ）とのくうちの人ぐ
もあやしとしひかれどいとかうよばかぬは
そひぶしなんとはしたぎりかり（源内裏）内より（左大臣）大殿は
まうでまへり（松蔭）例のうるはしうよそほしきはさ
ままで心うけしきは（ミクしき）気色もなくくるしかれば（源司）と
しよりぐるまうしよりぐさてあるかぬ心こしだ
いかまうれしかんなどこそしまへど（蔭ノ心地ニ）わざと人
すへてかしづき給ともてなしよりは（やむごと）
なく思しさぶめることとまよそもと心のこと
れていとぐらとくたびかしく御さるべし志
あてこしらぬやうまもてなしてこぶれたるはけ

もひまはえしも心づかずれいらへなどうち罵(さと)
のへるはなすぬ人よりはいとことなり。よとせげりを
これかこまおもすれば。うちすぐしもびしげり。
さりまとくのほりてこゝ給。おまごとかは。これ人乃
あかぬ所(ところ)は抱しまふ。我(ヨガ)心のあまりそしらぬまき
ひまうくうしこゝられさてまつるぞかしとおぼし
しらぬ。おろ(地)すじ大臣(ざじん)とこゝろゆかまもおぼしやむごと
なくおはすかがこゝやだらまひ(菱)とりいけきりしづ
こゝ給。れ心をぞりいとこゝなくてすこしもをろか
なりをばめざ後しとせひこゝしまへる後。おとこ(源)ぞ
もしなどかいとさしもとなしはいまふれこゝろのへ

ぞてどもなるべし。おとぐもうくれもしげるさ
れ心をつくしとしひきてし給なるべしそてまつり
のふとゝはうしゝもわきれてうしつきいとなみ
きてしのふ。ほ(源)とめて出給ところまさし(た大臣)のぞきまて。
れ(源)さうぞくしのふまゝ。ゑ(な)ゝうきれおびて(た大ド)げうもと
きてわたりのてれぞれ作うしろひきつくろひな
どれくりをとゝぬだらりましのふいとあれなり。
これ(源詞)はなひえんなどいふとも給なるは。さやう乃
ありまゝてなどきてしのへど。それ(た大ド)はまされなも
給りこれはこゝめなれぬさ海なれバなんとてしあて
さしせ(そ書)なりのふ。げ(地)ましろげまりしづきしてくゝ。ん

さしせ(さき)なりのふげまよろ
なり(さき)給まいけるひあり。と阪さるまてもうらん人
をいざしいれてそんまゝすとあしじとそ
しまふ。ざんざしまとてもおまるところもあり
さ給ひず。内(桐壹門)。去宮(朱雀院)。一院(寛平法皇ニ)ぞうさてハ夜(かち)つゞの三條(でう)乃
そやまぞまいりしまへる。と日はまることまもそ
給ふ。ねび給まゝ。ゆしさまぞなりまさり給れ
ゆりさ海ると。人ぐめで。宇(さこ)ゆる後。宮(なつか)ハ(こ)れ東丁のひ
まより。ほのこしまふまつけてもおもほせてこと
しげりかり。これ(なつかのはさんのるまと)のしるすもるまし(すぎ)が心
もとなるまゝ。此ほいさりともとこゝやゞ人も待(まち)さそ。内(清門)
まもさりは心(こ)まうけどもあるまつれなくてしらぬ。

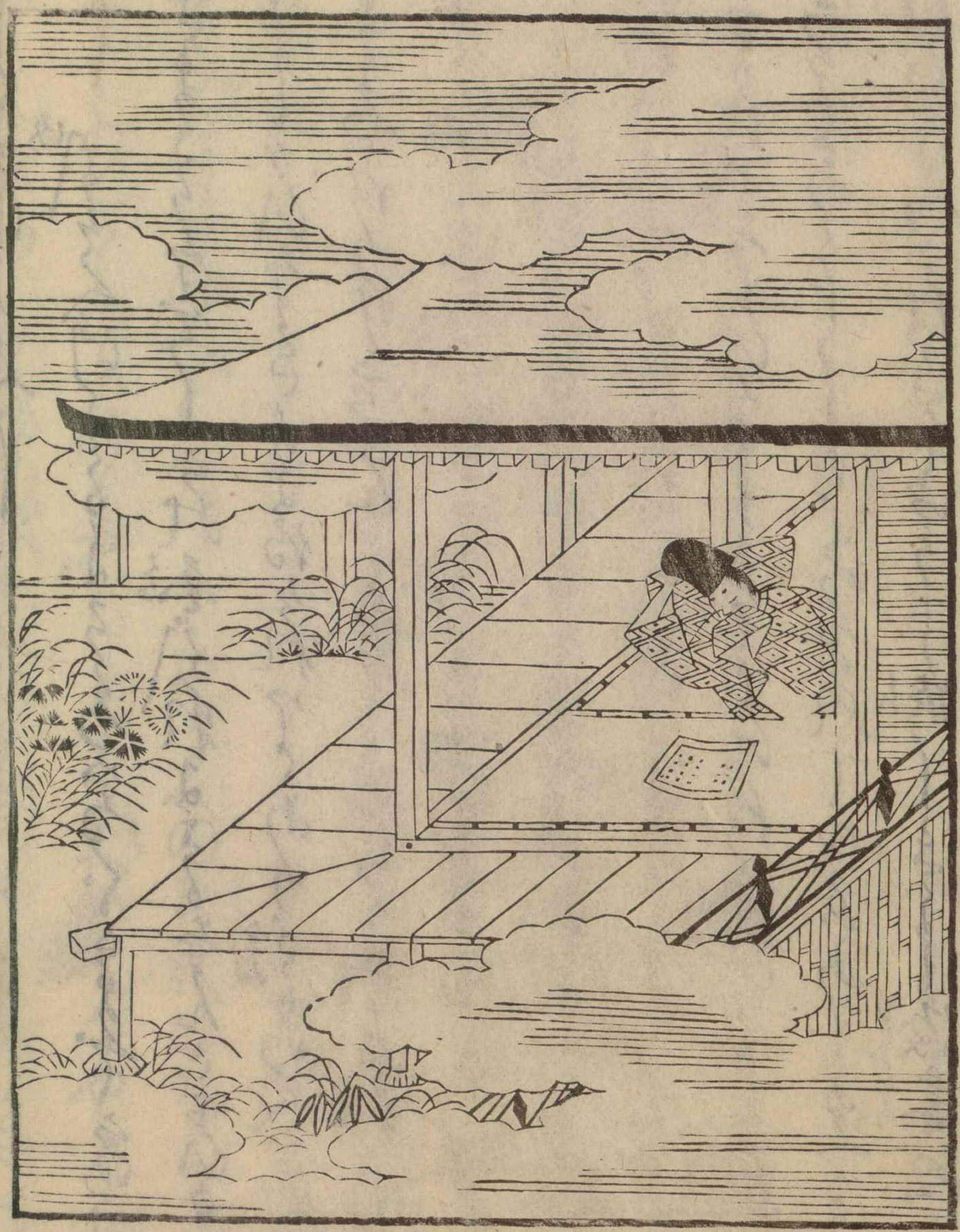
此ものゝけまやと世人もきゝしさまぐをこゝやいと
まびしうこれことまより外のいろごろまなりぬ
べきことゝおぼしなげくまれこちもいとくるしく
てなやみ給源中将のきゝはいとゞさひあるをてこゝぬ
ほうなどけざとはなくて前にまをさせ給世中の
さゞめなきまつけてもかくくれくてやゝこゝるん
とどりあげめてなげき給ま二月の十日あまりの
程ほおとこみこ生れ給ぬれば名ごりなく内にも
家ゝもよろこび男ゝ給命なぐもとおもほすは
心うれど弘厳殿などぬうけしげまのまふ
きくしとおもほすしくきくなりしかば人ひとも

いかき海まむかしむすべる契(ちぎり)にて此世まかく
なか中にへだてぞうらることとこそそろしがるかれと
のおふ令嫁も宴(菊つ本)のおもはしこぞれこるさ海ろど
とこ(そ志)ゆるまえりしこるりもかしたるち罪(きこ)ず
こそ(令嫁)てもせふこめたるいかまなげくんこや世の
人のまどふてふやこ(令嫁詞)あれは心ゆかひなきかこと
どもかなと遊(志の)びてきこそかりぐ(源)のこいひやる方(かた)
なくてかへりおふ抱かしぐ人のもれいひもまづこそ
しきをかりなきことまの給ひせ御ぞ志て令嫁
とも昔(むかし)御ぼいたりしやうにもうちとけむつび給
たず人めざ何まじくなかぐらかまてなしのまの抱

うゝ心づきれしとおぼして時もあるべき後いとを
びしくもひのかゝる心ちしべし宵に内へ(あるべ)まゐり
あふぼどよりハおほきまかよすけあひてやうしく
おきゝんりなどし給あさましきまでまゐぎれ前(どころ)
なきれかなつきを覚(おぼ)しかしぬことのしなれば父(法門)
るゝびなきどちハげ(源氏と家文と)まゐるまこそはとお
もほしうりいそしうおもほしうしづくことうぎり
なし源氏の君をうぎりなき地に覚しめしなぐる
世の人のゆるしきこゝ也まじかりしまうてゞう
まもえすへなとぎ(ふり)ぬましをあらずくちかしこそ
人まてうこゞけるきれ(ゑ)宵(ありさま)ぬうちまねびまておい

すりを出しんぜらまゝに心ぐるしく思しめすを
かりやむごとなきはたちにおなじひかりにてさ
し出あへれば、さずるまきおとおもはしいづく
家(おいが)はいかるるまつけてもむかのひまるくやすらず抱
をおもはせ例(れい)の中(添)将の君こゝろまゝにて此河をびろど
志給(おぼ)はいぐさ出てまつせまゝて、みこゝち(此門詞)河まゝ
あれどそこをのゝちすんかくり明(あけ)雲(れ)こしさ
れば出わるさりしまやあらんいとよくこそおぼし
これちいさき程はこれかくのゝあるわざしやかる
むとてはこゝしくうけらしとせひきこゝさせ給
へり中(添)将の君おもてのみかくり心ちしておそろし

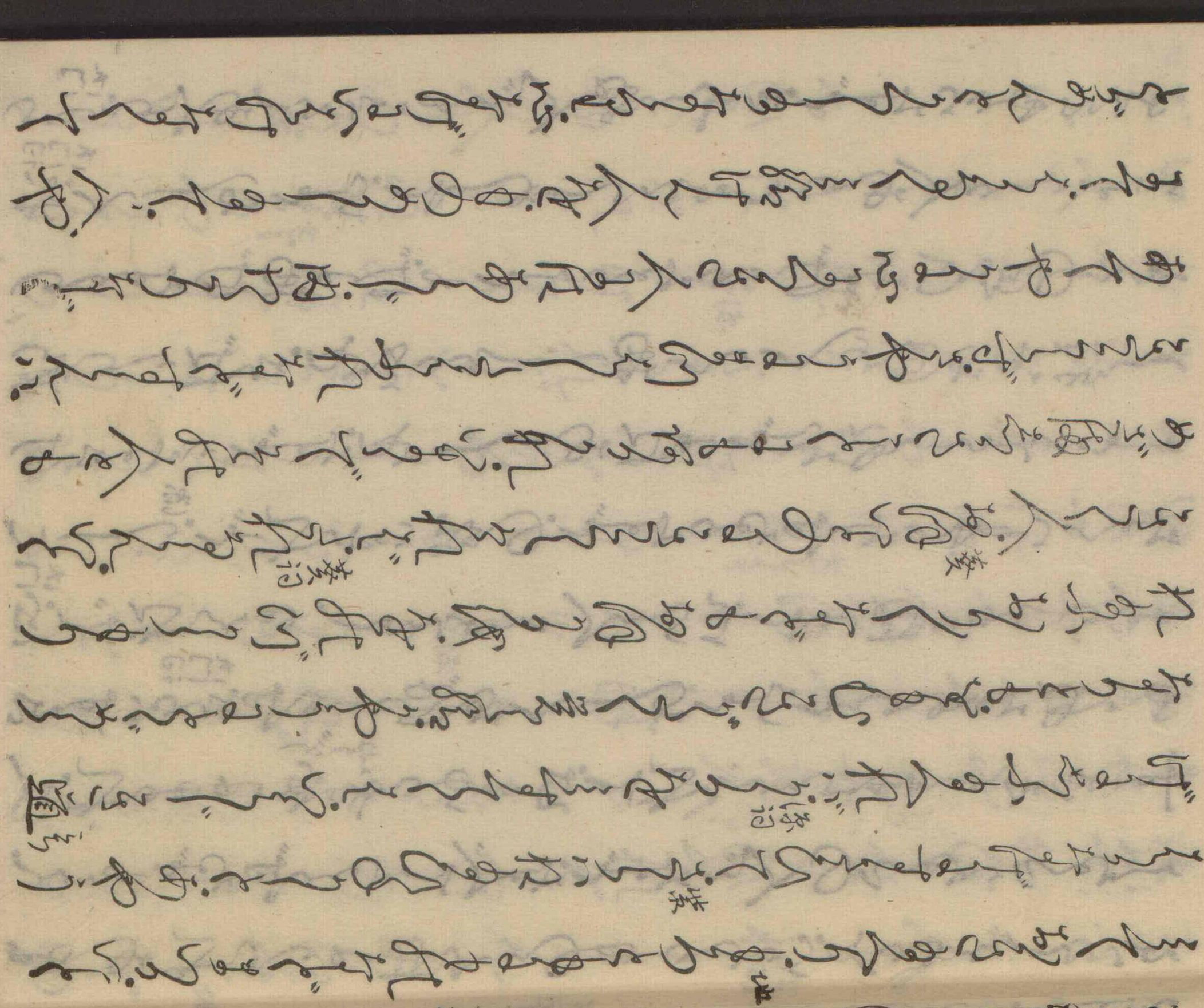
うまりてじけるくもうれしくも袈(あれ)まもりてぐう
けろふ心ちして液(なこぐ)おちめべし抱(あ)がたりるどして
うち思ふまへるがひとゆくしうまけくしさま
我(添)身なすごくこれまくたんはいうじういたりしう
おぼし給ぞあるがちるるや定(なつが)いわりなくかたりし
いたさりおももなすがれてぞおりしける中(添)ねは中に
なる心ちのかさこぐるやうなればまりでまひぬ我(まが)
はかたまふしまてむのやるかたるさを行さぐし
てお(蓑)ほいとのへとおぼしておまへのお(せん)裁(ざい)のなまと
るくあをまわられる中まとく反(なつ)のたるやかな嗟(さな)
出たる氏あしせまて今殿のまんのもとまかさまふ
ことおほかるべし



つぐぐとふしたるまもやうたなきこちとれは
例のるぐさめまはましのこいまぞわたり給志どけ
なくうちふくぶこまへるびんぐさあぎれぬる
うりさすぐこまてふえをなけりしうふさを
さひつのぞきまへれば女業ありつる菜の露は
ぬれたるこちしてぞひしまへるさ海うれく
しうらうたげなりあいぎやうこぼるくやうまて
おりしるぐとくもわたり給ちぬなる海うしかり
それば例なすぎそむさまへるなるべし流しのこ
しつい君ぬてこちやとのまへどおどろうず入ぬるいそ
のとくちぎさひて口おほひし給へるさ海いとぐ

うざれてうけくしあかまくうらことくらなれ給
まかりなみかめまあくはまきるさことよとて人
めしてれ琴とりよとてひかせなりまふさう乃
琴は中れほそをのくへがたきとて取とけ積とて
平調をしくづして志しべ給かきあくせざりひ
きそさしやりまへれば元急じもとてぐいとうけく
しうひきまふちいさ紀れ程をさしやりてゆし給
れてつきいとうけくしそれだらうたしとなげして
笛吹なりしけをしへ給いとさとくて うたき
調子どもをたぐ一ねりまなしひとりしまふ大方
らりくだうなりしきれこころだへを思し事

すくせひきてて。まげくねくしくうしむ人
の心やぶらじとせひて。むつしかれだしだし
うくもなりくぞ。おとるしくえれしては。ほか人もさ
らまいくまじ。人の昭(うら)をおりじなどおもふも。世は
なずうなりて。せふさ夜はえし。なんと(そまつ)なふぞなど。
こ夜ぐとうらひきてしまへだ。さすがはとらげう
しくてとゝもうくもいくへきてし。語りぞ。やがて此
ひざまよりかりて。ねいりまひぬれだ。いとこころ
ぐるしうてこよひいでぞ。ぬぬとのうまへばこれ
こちて。おものるどこるるはまいしせうり。娘(紫)君れ
こし。なり(そまつ)まひて。いてずぬぬときてしまへだ。なぐと(紫)



さるゆゑはなど、さかしき人ぐもきこえしあへり。うち
まもりたる人ありとききこしめしてぞ、いとおしくおぼす
とぐの思ひなげかせたまふも、げにはかなげなるうり
し給をおぼしめしてくるしう心ぐるしさは思ひ乃
ことうどころあれど、まはあはれをなぞかうなさけ
なくはもてなすらるなぞの給はせれど、うしこ
ありさる夜までは、人もきこえし。あさましく心
ゆゑなめりと、いとおしくおぼしめすさるはすゞき
ずきもてうちこぼれてば、さゆり女房(ねうばう)はまいれ。又
しるきうるさこの人ぐなぞおんべてるしずおぼしきこえ
させしがめうとぞいふうるなるものく夜まりくれあまた

まてうく人にも恨(うらみ)ふくんとの給ひ。(地)ミうどの
此年(とし)稱びさせまひぬれどうやうのこはえすぐ
させ給ひず。采女(うねへ)蔵人(くらふど)などをもうちちろあるをば
ことにもてはやしおぼしめしこればよしあり
こやづへ人おほうろたりと(源)ちるまことをも
いひふれ給ひにはもて(女どもくる)はるくことも何りがたさる。
めなるくにやあらんげにぞあやしうすいこまは
ざめりとこころこはこれごとをこそこうりな
どすなりなれど(源)なすけなるぬほどにようち
いへて。まことにはこぶれこまはぬを(女ども)まめやかり
さうぐしとおひきゐる人もありさしいこう

老(おい)たる内侍(ないし)のもとけ。人もやんごとなく心ぐをありて。
あてまおぼしたるくハなりなすがらいたじうあぐ。
いたる心ざ夜まてそろまたまはをもたらぬあるを。(源ん)う
うさぐすぐなまでおすどさしもうぐるんといぶ
りしくおぼしまひれバこそふれごといひふれて。
心ミまふまにげ(内侍ん)なくもおもはざりなり。なき(源ん)ましと
おぼしなすがらさすがまうるもおうしうて。抱なぐ
のまてゞれど人のもりさうんもふるめしさほど
なれバつれなくもてなしまへるを。(内侍)やハいとつし
と思へり。(内侍)うへのれなづりぐしまさふしひけるを
そてまれバそうちされ人めしていでさせまひ

ぬる程にまゐる人もなくてこれ内侍(さいし)づねよりも
きよげにやうぶいりらつきなる夜めきてざうそ
く有様(ありさま)いとさかやかにこれましげにゆるし
さも(添ん)ふりがうとうろづきるくこ給柄からいかに
ちふんとさすがにすぐしがるくてもれすそを
引おどろかしまへれば内侍はぼり(扉こ)のえなりぞ忍かさ
うをさしかくしてこうへりしろまみいたうこの
べれど夜かぢらいたくくろこおちいりていこじ
くもづれそくけうり

まつ(ほん)もしらぬ扇(あぎ)のさ海なるとゝ給ひてゆゑ
もなへるまさしらへてこゝなへがおりきゝみのう
けるぞうり気ふるさまゝ末ぞうきもりのうるを
ぬりうくしたりうるつるまでいいとさぞすぎ
これどよしなすらずかりのしるくさおいぬれ
ぞなしどうきさきさひしうるをどとしもそれ
うきての心ぞへやとゑまれちぶかりこそ夜の
とゝゆめるとてなまくれとのゆふもまげなくんや
こけけんとくるしきば女(門侍)はさもおもひしらず
(門侍)えしこばたなれの弱(こま)まりりうんさりすぎ
しろ下葉(しまぞ)なりともどいふさ海ことゝるうゑめきこり

一 ぢくまけば人やとがめんいけとる 弱(こま)なすべく
めるまりのまがれ。わつらひしまとてしら給を。
ひ(内侍)へて。おぼうらまれをよそせひとべくね。今(いま)さら
なる身のたぢまなんとてなくさ海いといとゞいま(源司)
こさてしんせひながらぞやとて。引(ひき)ちるちて出まふ
をぢめて(内侍)とよびて。ぐらとうしうらを。うへ(内侍)
ハこうちこさまてく。ぬ(こ)傳子(さうじ)のうちよりのぞうせ給
なりよりかたしうらぬあたひれといとおかしう
なばしめされて。すき心(内侍)なしとつねまもてるやむ
ある。ぬさはいへどすぐさうゞつまけるハとて。わらはせ
なへハ。内侍(なかし)ハな海まばゆれどすくうぬ人也へぬれ

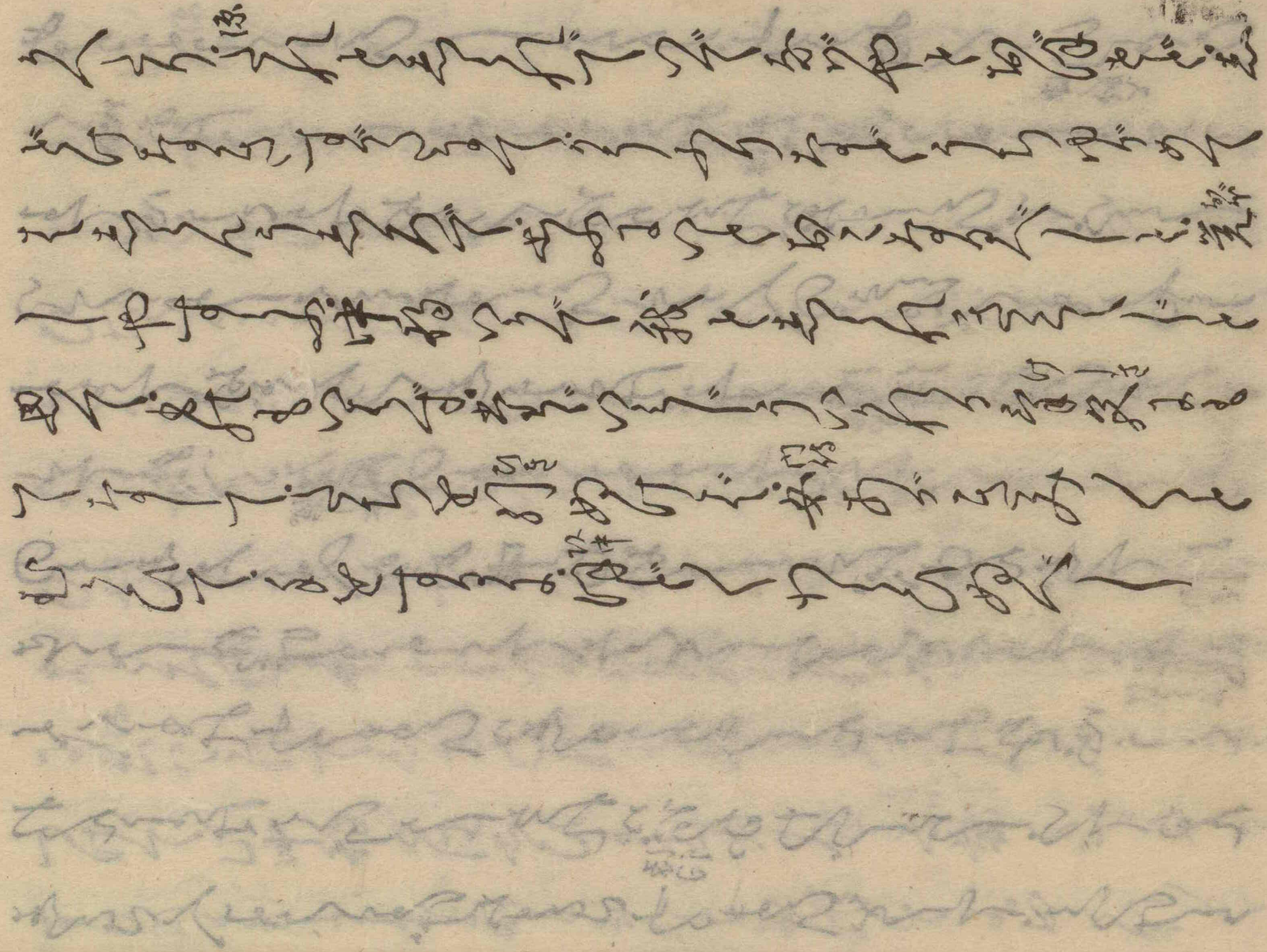
ぶぬをぶまきまほしうらぶひも何なれバよや。
いたうもあらぶひきたくさせぬ。人(地)どもさひのかう
なうことかれとあらふめる後。頭(とうの)中ねきてつけて。
いたらぬくまなきさ心まてまぶさひよらざりけるよと
さぬまづきをぬ好(この)こ心もこまかしう奴(なり)なれバか
たらひつきまなり。此(門侍ん)君(以中)も人よりハいとことなる後。
れつれなき人(源)の此なぐさめまとなりひつれど。
みまかしきはかぎり何りけるをとや。うしそのこれ
こやいたうしのぶれバ源氏の君ハえしり給ふぬ。
(門侍源と)こつけきてハまぶうしこ字(きこ)ゆりをよ(源ん)くひの程
いとあしそれバなくさめんとなほをどかるらぬ地

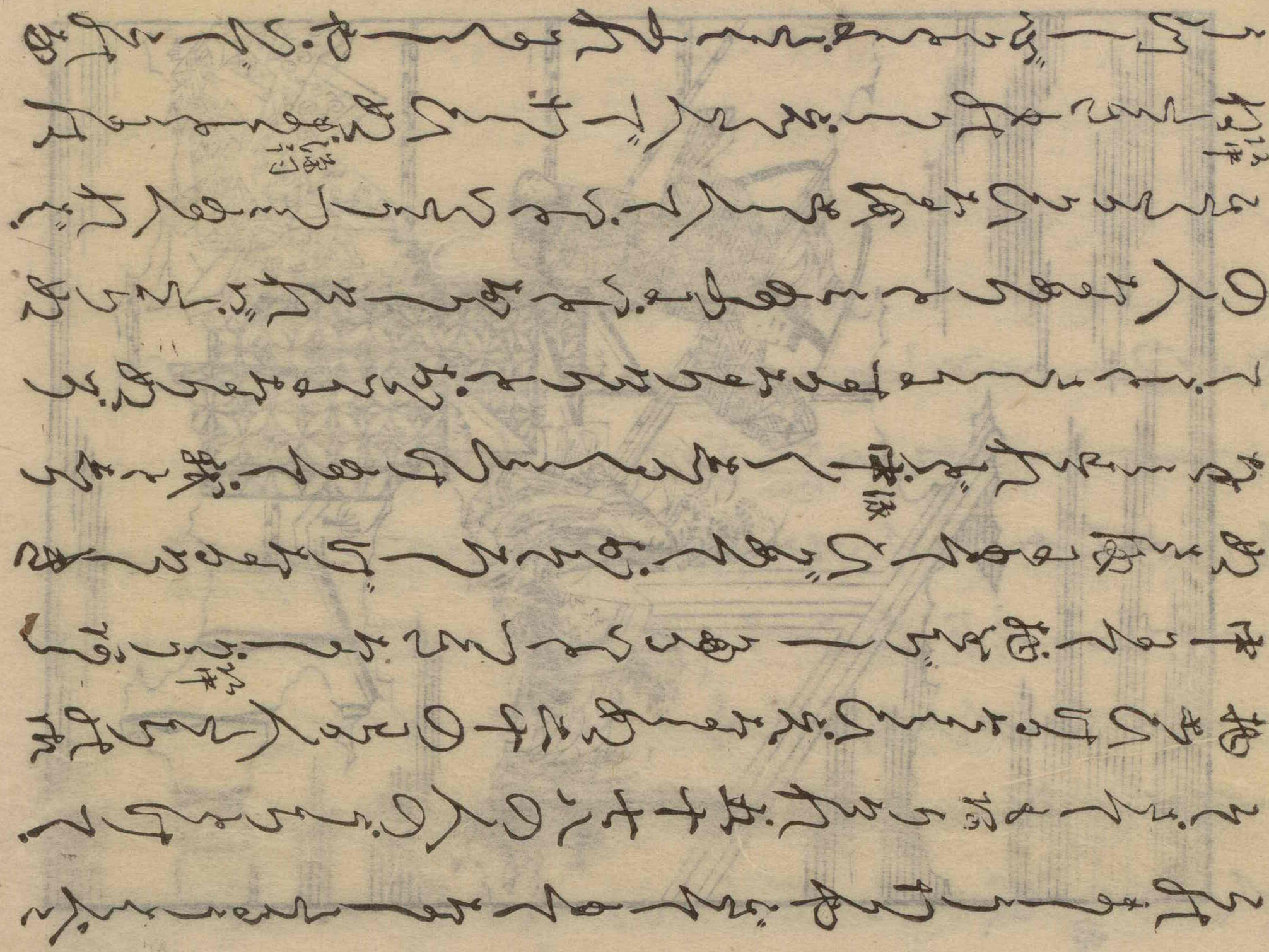
うさまいとひさしうなりにけるをゆふぐちして
おぼり涼しき宵のまぎれに温明殿のわたりをさ
ぐまゝなりてさしまへば内侍びも候いとおかしう
ひきゐたりけ前などしてもおとこすのけあそび
まじつとなどしてとまきる人なき上手なれ
ばもれくうちしうえんしけるおりうちいとなれに
きこゑぬうちはくりに成やしなましと夢にいと
おかしうてうたふぞすこし心づきなきぐくしう
まかりけん昔の人もうくやおかしかりけんとみく
とまりてこそあふひきやえていといくたまひ
えぐれたるけもひなりまあげまやを悪びやかに

うたひてよりゐゑるに、ぞしひらいて、ここまをと
うちそへたるも例（れい 源ん）にしらぬひたうこちぞするや
（内侍）立ぬるく人志もあらじあげまやにうゑて
もうる面ぞくさうれどうちなげくを我（源ん）ひとり
しもこきてあふまじそれどうとましや行ぐすを
くまでとてとなばゆ
（源）人づまはあかわづらりしあげまやのまやの
何まりもなれじとぞしふとてうちすぎなまれ
しそれどおまりたしたるくやとしひかへして、
人にしるがへばそこしたやつとうるうこそふれごとか
どいひかりて是（これ）もめづらしきゆちぞ志すふ頭（とうの）中ね

も。此(涼)君のいくまめごちをぐして。つねにもどさ
こまふが。ゆくさき。つれなくて。うちくに。思(しの)びなふ
うぐ。おほかめるを。いかでこゝろもさんとのこ思
ひわるるに。これをこゝろけるこゝろ。いせうれし。
かゝりにすうしをどしきてして。此(こ)こゝろまど
もしてこゝりぬやといもんとせひて。こゝゆめきも。風(地)
ひやくうまうちふさて。やくふけり。初(おど)にもこゝ
まどろむにやとこゝゆ。字(にしき)多なれば。や(以中)をこゝりける
に。君(涼)にとけて志も。○給もぬこゝろなれば。ふとこさ
つけて。此中物とはせひよしぎなを。志(まれ)難(がた)くすなる。
すりのうえにまゝてあしきんとおほせに。おこれく

しき人まうくまげなきふるまひをしてこゝろけら
れんとはたらげりしかれば（源詞）なかわづらりしいでなん
よべくもれふるまひはしりりつゝんもれを心うく
もちりし給けるよとてぞをしがりをさりて屏風（びやうぶ）
のうしろまへなめ中ねなりしき給ふんぞて引（ひき）
とて給へる屏風（びやうぶ）のもとまりてぞかゞくとこゝみ
よきておどろくしうさはがすま間（ないし）侍はねびされど
いたくよりしだいたすまびたる人のさ記ぐまりやう
まて心うごり守なりくなりかれぞまひていたらじ
く心あはたしきまもこれ君（源）をいりましきて
ぬるまりとまびしさりふる姫くひ（源ノ姫と）とひ

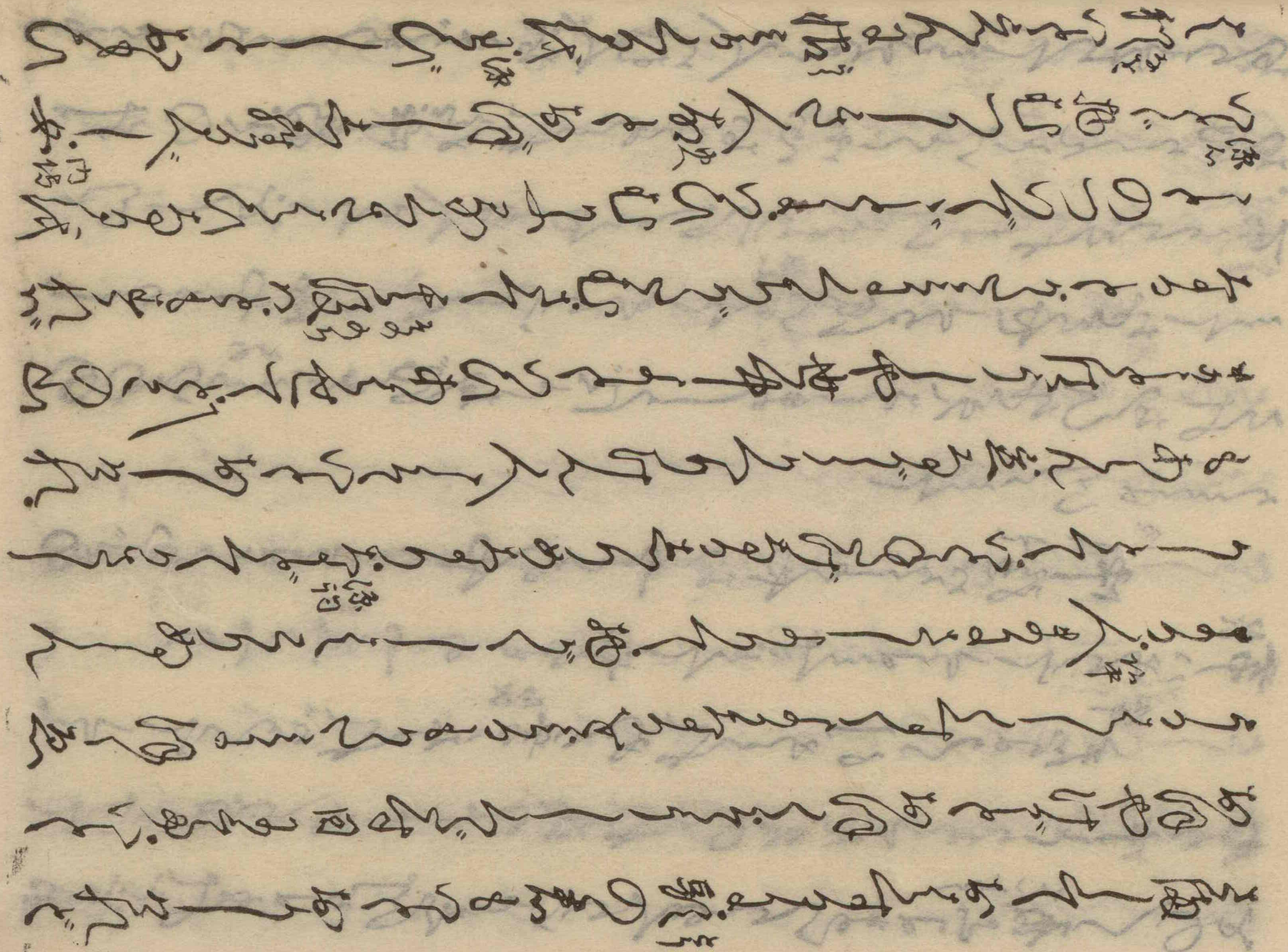




ねもしこまんとのゝかへどうつとさらへてさうさは中ゆかね
しらさこそすざげばまろともまよせてとうこ面
中ねの嵜をのこさとこさてめかをかへばぬかしかし
まきまのふとぞとくひこころふ種よおこらびた様
ろくとしてめ中ね
つむめるかやまりいでんひこさはとりく
ほころぶる中のころまよ別へまとりこさでこう
らんといふこさこ
りくれるこさ抱とあつく夜家こるるとうすこ
心とみでみるどいひひりくしてうしやこえまるこさこまつけ
あるさこすずろまりなすされてこれ出のめ見へやとくち

おしくこうけられぬることなりひかしまへ至
内侍はあきましうおぼしそれどおちとまれる法
さしぬきおびなどつとめてこそまゐれり
内侍ゑこ
猶てもいふかひぞなきこちらされひきてゑ
至し波のなごりまゐてもあらはまとなりおもなの
さ海やとこゝ給もまくそれどかりなしとさへり志も
さすがにまゐる
源
あらざりし波を心もさはがれどよ物けん
破をいらぐうしこゝぬとのこなすんまさけるおびは中将
の成なり
源
かげ法なすゆししらまをいろふかしとこん
給はまゝ袖もなりなりあやしのことぞもや

ありしちてこゝざるゝ人はむべおこがましきことも
なほかゝんといとゞ此心おさめられ給中将との升
取(ごち)りこれまじどぢつけさせ給へとてぞしけ
こそなさせたる紙(源)いりてそりつゝんと心やまし
これおびなえざしまのしかばとおぼせ(その)いろの
かゝるよりこそて
中(源)将(さ)がゞとやおふとあやうさまさるがごの
帯(おび)はさりてざまこゝずとてやはまふ立(たち)かへり
君(年)なりく引きられぬる帯(おび)なれバかくてこそ
ぬる中とりろゝん。えのがれ給ひじとあり。目をけて
とのゝ夜(てんじゃう)上まいりのへりいと志げかるまれどをき



ありゐ給ふ中将ハいまりよの君は宮にのぞきさぶらふ。
さうべきおりのとうしぐさる。きんとぞおもひける。
やむごとなきされはしらぐのみこ、うちざまの人の
れまでるしのこゝろなすさまさまぶらうしくりていと
よろきさり、さこしまんするを、これ中将ハ、さうしまなし
それこそしじやうさるこゝろよつつそても、せひ
いどころさうし給ふ君ひとうりで姫君のれひとうがら
なりけるがみゆどのれ子といみがらうまこそおれ、我も
あるじ大臣をみそあれど、れあはしとなすかかんこ
ごしまで、文かくうしづれまろハ、何ぞうりさとる
べきおなきとあはしあさめなすべし。人がしうまあつ

べきかぎりとくのひて何度もあらまほしくこひ
てぞ申し給けるされ此中どものいどんこそ
あやしかりしがされどうるさくてなん七月まぞ
なつかは宮ニ立給るまゝ
ゐさせ給ねまゐめりし源氏の君宰相になり給ぬ
みどありねさせ給ちんの此心づかひちかう成事
此若宮を坊にまとせひきてしさせ給ほれうしろ志
給べきひとおもほ給ひしかくこそ給ひ
て源氏のおほやけごとしり給ひしぢなれば宮
とぞるうごきなきまゝ海にしをとさなりて此より
まとおほするなんなりけり弘徽殿いとくれこゝろう
ゐさ給ことくちりなりされど春宮の此世いとちかくなり

ぬれぞうるがひたまされ位なり。おまはしのどめよと
ぞこそしさせまひけるげ地は去家のれ母まて世余年
はなりまへる如れを至とてまろりて引こしたて
まろりまひがたきことなりしと例のやまかしば。
世人もこそしなりまいり給兎の中家ノ行啓之れとまる。宰相の君
もつうまろりまふおなじこされとこそゆる中
はもこささいぐらのみこ。玉のひかりうやこそこ
ぐひたまされおぼしはさへまれしたまへぐ人も
いとことはしひうしづなこそしたりまして
たまされ心はれこうしのうちもしひやれていとく
とよびたまさ心ちし給はそぐろうしこまでなん

つきもをぬ心のやうにくれ雲ゐに人
をうるまつけてもとのこひとりごとれいしまれい
とあはれなりみこそおよすけあふ月日にしたる
がひていとこそまつりわきがたげなるを安いと
くるしとあばをど思ひよろ人なきなりうしげに
いかに海にいくりへて月をとらぬれありさ海にうに
いでもれし給えまし月日のひかりの雲にかに
ひさるやうにぞよれ人もおもへる

69038
6 AP75